

平成 27 年度 第 2 回新宿区文化芸術振興会議（第 3 期） 議事要旨

■開催日時 平成 27 年 12 月 8 日 午前 10 時から午前 12 時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎 5 階 大会議室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 乗松好美 松井千輝 根本晴美 大野順二
大和滋 市川治郎 舟橋香樹（欠席 原口秀夫）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く。)

事務局 加賀美地域文化部長 橋本文化観光課長 原文化観光係長 土肥主任

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の振興について、次第に沿って進行すること及び審議を効率的に進めるため、次第の議事(1)から(2)を一括して審議することを確認した。

2 議事(要旨)

(1) 前回の会議の内容について

資料 1-1 及び資料 1-2 に基づき、前回会議(平成 27 年 6 月 25 日開催)の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 調査審議事項「東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けた新宿区の文化芸術振興」について

資料 2、3 及び 4、参考資料 1 及び参考資料 2 に基づき、垣内専門部会長が説明を行い、資料の詳細は事務局が説明を行った。

(3) 意見交換

【以降、意見交換】

- ・時間軸で何を優先的にやるのかということを決めていく時期に来ている。
- ・新宿の場合は、文化芸術という観点でいうと、音楽や美術もあるが、これだけスクリーンが集積しているまちはないので、例えば映画とか、そういったものをどう捉えていくかの考えを詰めて行けば良い。
- ・5 年後との関連で言うと、新宿区としては、フィールドミュージアムを軸にして、その中で関連する事業をもう少し絞り込んでいく必要がある。
- ・国や都の動きが本格化するのは、恐らく 2018 年ぐらいから。それに向けて今から対応を考えていかないといけないため、今期の文化芸術振興会議で、是非、大きな考え方・方針を明確にして、フィールドミュージアムを、年間を通して恒常的に打ち出していくことを考えた方が良い。
- ・事務局である文化観光課は、観光事業も行っているのだから、文化と観光をどう結びつけていくかというような論点での議論も深めた方が良い。

- フィールドミュージアム憲章というものがあると推進力が高まる。
- ほかの地域でどのような文化芸術の取り組みをして、何が成功しているかということ进行研究することも大変重要。
- 新宿には音楽、美術、演劇や落語に加えて、文化的な遺産もたくさんあるので、そういったものを上手に組み合わせながら、たくさんの場所を巡っていけるような、巡りたいという気持ちにさせるような仕掛けを作ってしまうと良い。
- ちょっとした仕掛けで、イベントの参加者が増加することが分かったので、新宿フィールドミュージアムも通年化され、回遊イベントが習慣化することのきっかけになれば良い。
- 新宿フィールドミュージアムに協力、協賛してくれた企業・団体を表彰したり、あるいはたくさんイベントを回った方を表彰したりというようなことも、年間を通じたイベントとして行ってみても良い。
- フィールドミュージアムでも、現場の風景を記録映像として残しておきながら、イベントの時に、プロモーション映像に編集し直して発表することもできる。それらの映像は、日英だけではなく、フランス語とか韓国語、中国語、10カ国語ぐらい作って紹介するのも良い。
- 「新宿区と言えば文化」というイメージが定着すれば、新宿検定、新宿文化検定もできるのではないかな。
- 「和食」という無形文化遺産を考えた時に、新宿区には、歌舞伎町やゴールデン街、神楽坂という地域の特色があり、これを飲食文化の柱に位置づけて、食の観点も文化の取り組みの中に入れても良い。フィールドミュージアムに関連させて、飲食をうまく取り込んでいくと効果的ではないかな。
- 何億・何十億というお金をかけた施設設備にしたところで、やはりたくさんの不満が出る。要は、施設の使い方なのではないかな。文化センターも施設が老朽化しても、安全である限りは、中をうまく工夫して、いろいろと改修しながら使う、手をかけながら大切に使う、そういうことが、日本的な「ものを大切にしていく」ことに繋がるのではないかな。
- 新宿には、様々なスタイルの文化や芸術に繋がるものがあって、それぞれがきちんと尊重しあって、どれか1つを取り上げるというよりは全てを尊重し合えるような、そういう施策をされるのが、新宿らしいのではないかな。フィールドミュージアムという旗印を掲げて目標や目的は明確にされつつも、実際に中にあるものは多様性をしっかりと尊重していくという方向が良いのではないかな。
- 文化センターと早稲田大学交響楽団のフランチャイズ協定は、とても良い取り組みなので、どんどん進めていていただきたい。そういった取り組みを文化センター内に掲示するとか、知らしめることも1つの方法ではないかな。
- 都内の音楽ホールやバレエ公演ができる会場がどんどん閉館になって大変だという2016年問題があるが、だからこそ、文化センターは老朽化があるかもしれないが、チャンスだと思う。思い切って軽音楽に特化するとか、バレエ音楽に特化するとか、新宿文化センターはこれだというのが1つあると、とても良い。
- 文化センターのあり方の問題は、実際にもうすぐ取り掛からなければならない。
- 文化センターでも、催しの際に、その中の、まだあまり注目されていないものを知っていただくために、ロビーを使った展示等に取り組んでみるのも良い。

- 食文化も是非取り入れていただきたい。文化センターにも、レストランがあるので、文化センターに行くと、これを食べることができるとか、例えば今はゲーム音楽コンサートを行っているので、ゲームにちなんだメニューを提供するとか、音楽を聞きに来なくても、文化センターの催し物には参加しなくても、レストラン目当てに来る人がいても良いのではないか。その方たちが、イベントのチラシを持ち帰って、ああこんな催しがあるのだなと知っていただくという逆の発信方法も1つの手段である。
- フィールドミュージアムのガイドブックは、持ち歩きやすい大きさでとても良いと思う反面、字が小さいのではないか。たくさんの情報を載せなくてはならないとは思いますが、あまりに情報があり過ぎて、ピンポイントで何かの情報を知りたい人は、なかなかその情報に辿りつけないのではないか。ガイドブックを読む限り、全体的にバラバラバラという感じのため、「今年の押しはこれ」という1つの大きな企画があっても、印象づけられるのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムの今の取り組み方は、アートファンや演劇ファン、クラシックファンを増やすというようなプログラムが多いが、もう少し支持者獲得や、社会貢献型マーケティングに繋がるような取り組みにも目を向けていただきたい。
- 生け花のワークショップをお願いした方が、予算はあるけれど、それを実践する場が無いというように、いろいろな場面で提案したいものはあるけれども、受け入れる側とのミスマッチが発生するということが起きている。一方で、予算が足りなくて、子どもたちやお年寄りや障がいのある方といった、本来であればもう少し文化芸術に親しんでいただきたい層に、そういう場が提供できないということもある。
- フィールドミュージアムのプログラムは、健康な人は自分の考えで集まってくるが、そうすると社会的弱者はどんどん離れていくようなイメージがあるので、あえて社会的弱者とコラボレーションしたようなプログラム開発を打ち出すことも良い。若者とお年寄り、障がい者と若者といった形で、これからの時代を担っていく層をどんどん開発できるようなアートプログラムを、新宿フィールドミュージアムで積極的に開発・提案していただきたい。
- 特に若者は、資金不足で苦労しているので、資金協力や支援開発というようなプログラムも提案できると、フィールドミュージアムも5年後、10年後により活性化していくのではないか。
- 新宿フィールドミュージアムのごちゃ混ぜ感がとても新宿らしいと思う。いろいろなものが混在しているというのが、まさに新宿だと感じる。逆に言えば選択肢が多いことなので、内容の精査も必要だが、内容をブラッシュアップしていけば、より良いものになるのではないか。
- 新宿文化センターについて心配なのは、東京の劇場は非常にプログラムを決めるのが早いということ。つまり何年後かを見据えた計画の中で、動かなければならず、それは文化センターも同じで、今すぐにでも着手しないと手遅れになってしまう。
- せっかくフィールドミュージアムを行っているのだから、この期間に新宿文化センターからもっと発信すべきではないか。老朽化は非常に大きな問題だが、何も最新の映像や、ハイテクノロジーを使った演目をやらなくても、新宿文化センターでできることは何かということ、突き詰めて考えていく必要がある。

- 「施設のあり方」については、平成29年に、「漱石山房記念館」が完成するので、文化振興会議の方針や考え方を、他の文化芸術施設と同様に反映していくためにも、既に区内の施設としてあるものとして考えていった方が良い。
- フィールドミュージアムについては、文化センターの問題が議論が上がっているが、歴史博物館の活動についても、文化芸術振興会議の流れと向き合わせて考えていかなければならない。
- 例えば、新宿には、初等教育が寺子屋から小学校へと変遷する過程で設けられた東京府仮小学校のうちの2つがあるそうで、それを新宿の史跡として登録しようという動きもあり、こういったものをフィールドミュージアムの中にどのように取り込むのかという課題と、一方で取り込めないものもたくさんあるわけで、少し整理しないといけない。
- 神楽坂や歌舞伎町等の街並みの風景もガイドブックに載せて、取り上げていたら良い。オリンピックに向けていろいろ開発されていく中で、思い出横丁とかゴールデン街とか、そういった街並みが消えてしまわないようにと願う。
- 早稲田大学との関わりが随分取り上げられているが、他の大学でもいろいろと取り組んでいるため、そういうものもきちんと取り上げていただきたい。
- 平成30年から始まる新総合計画の作成は、その前からなるため、早目に文化芸術振興会議の方で方向性を決めておかないと、オリンピックにも間に合わないし、自治体にとって非常に重要な基礎となる10年近く続く新たな新総合計画に、その方向性をうまく盛り込んでおかないと、なかなか自治体も動けないため、時間はあるようでない。
- 今回の会議の議論も踏まえて、出来るだけ早めに、フィールドミュージアムを、どういう形、どういう方向性で充実させていくのか、その中に新宿文化センターをどういうふうに盛り込むのかを考えていかなければならない。
- 新宿文化センターについては、歴史的な価値もあるし、音響自体も十分使えるということであれば、次の世代に引き継いでいく、そういう文化的な価値があるものとして使っていくという方向性を早く出した方が良いのではないかと。
- 文化センターとフィールドミュージアムとの関わりは当然外せない点なので、事務局でも案を練って、それぞれの先生方のご意見がある程度早目にお聞きした方が良い。
- フィールドミュージアムは、今10月・11月に開催していますが、オリンピックは夏なので、オリンピックに向けての準備をするのであれば、時期をどこかの時点で早めなくてはならない。
- 劇場関係のスケジュールは、2年先、3年先についても考えていると思うので、待たなしのスケジュール感。もう一度、各委員の方のご意見を確認した方が良い。
- 2020年のオリンピック・パラリンピックは、とても重要な、いろいろなインパクトのある事業。文化芸術だけではなく、恐らく日本経済、新宿区にとっても大きな影響がある。来街者産業で成り立っている新宿区にとっては、宿泊先や飲食、ショッピング等、様々な魅力を、民間企業との連携も含めて、区ではここまでやるとか、フィールドミュージアム協議会はここまでやるとか、参加者はここまでやるとか、支援者はこういう形で募っていくとか、そういった役割分担を少し精査していく必要もある。
- 和食、日本の食文化については、民間だけではなくて行政も含めて取り組んでいく部分なので、役割分担も含めて、食文化についてももう一度考える必要がある。

- フィールドミュージアムの顕彰はとても重要であるが、パフォーマーや参加者への顕彰は多いが、支えてくださる方への顕彰ということもとても重要である。新宿区の場合は、やはり民間の力がとても強いので、そういった企業や公の機関の方々、様々なサポーター側の意欲をより喚起するという意味でも、顕彰制度を上手に使うと良い。
- 区の予算もあることながら、資金集めの方法や支持者獲得についての取り組みも検討していきたい。それぞれのプロジェクトの事業に協賛企業を募ることは、企業にとってもイメージアップになるし、同時に文化社会貢献にもなる。プログラムを積極的に考えて、官民協力が実際にどういう形でできるか考えていかないといけない。
- 企業の場合は協賛によりイメージアップに繋がるが、一般の方々であれば、お祭りの際の寄付が提灯に名前が表示されるように、少額であっても、協力していただいた方の名前を出すことで、参加者意識も高まるし、知恵を絞れば、そういった方法ができるのではないかな。
- フィールドミュージアムのイベントとして少し組み入れにくい、恒常的な施設あるいは文化遺産を、上手に文化の場所として組み入れていくことにも知恵を絞っていただきたい。
- 事務局でも、早速、それぞれの意見を具体的にどこに相談したら良いか考え、案についてまとめるだけでなく、「この問題については、この委員の先生」というように相談しながら、然るべき組織に繋げる必要がある。
- 文化センターは、もっと広報・周知の仕方が必要。
- フィールドミュージアムのガイドブックも、新聞のリードや見出しのようなものを入れるとか、広報の工夫も必要。情報は全部入れるが、同時にある程度、ピンポイントに関心を持つ人が見やすいような形も、広報の手段として当然考えていかなければいけない。
- 食文化と関連させて、食文化のブランド化のようなことも新宿の特色を踏まえて考えることができるのではないかな。
- 子どもや障がい者のための文化施設や活動ももちろん必要。フィールドミュージアムの中でも、例えば子どものためのプログラムという取り組みも必要だし、それと同時に、ごちゃ混ぜというか、老人も子どもも参加するようなプログラムも必要。障がい者も健常者も、若いも若きも同じように取り組めるプログラムをうまく考える。
- ネットの力はやはりすごい。特定の企業に働きかけるのももちろん大事だが、ネットを使ったクラウドファンディングのような手法を活用していく方法も良い。また、イベントにしても、高齢者向けには、これまでのお知らせの仕方が大事だが、若者向けにいついつはここへ集合、そこに集まったら何か1つポイントがもらえるというようなネット上のイベントを立ち上げるだけで、恐らく新宿にどっと人が集まってくると思う。発信の工夫すれば、若者も集まってくると思う。
- 若者は、ネットを頻繁に利用しているようなので、周知徹底の方法としては非常に重要なツール。
- 「課題の整理、考え方を固める」「方針・提言」というスケジュールは、来年の6月ぐらいまでに決めないといけないので、議論の進め方を少し考えたい。
- フィールドミュージアムという事業で、区が行っていることは枠組み作りであって、その中身である細かいコンテンツは、参加する個々の人たちが考えるのではないかな。区は、個々の人たちが考えることを誘導することを考える立場である。

- 文化センターのあり方については、区の方針が定まるのかどうかという段階に来ているのではないか。そのため、このことについて、今度の提言の中にどこまで入れるのか、時期的にも気になる。次の文化芸術振興会議に素案が出てこない、もう議論ができないのかと思う。
- 企業が何らかの活動に対して協賛をするのは、1つは、広報、PRあるいは宣伝の目的、それから純粋に、社会貢献としてのCSR、また、おつき合い的なお金の出し方というの多少はある。また、本業や事業活動という経営そのものに対するフィードバックがどこまであるのかにもある。
- 今までの企業の協賛や文化活動は、何のためにやっているのかというところを、陰徳、こっそりお金を出していることが良いと言われていた時代から、企業が存続していくための利益をどう生んでいくのかということの中に、どう文化貢献が含まれていくのかということも、きちんと示している方がむしろ良いのだという風潮に変わってきている。
- 最近の若者は、写真を撮るために出かけることが多い、つまり、撮影スポットがあればそこへ出かけて行くので、フィールドミュージアムのフェイスブックでも、行ってみたいとなるような写真を掲載すれば、もっと若者を呼び込めると思う。またそれに対して、誰かがフェイスブックに「いいね」を押すことによって、どんどん拡散して人を呼び込めるのではないか。フィールドミュージアムのガイドブックにも、「こんな写真が撮れるのだったら行ってみようかな」という写真を取り入れていけば良い。
- 今回の議論で出てきたご意見を整理して資料にまとめ、実行に移していくことが必要なので、専門部会で提言に繋がる素案の検討をお願いしたい。

3 事務連絡等

次回の会議は、2月頃を開催予定とし、日程や会場等については、別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長のあいさつをもって、午前12時に閉会した。